

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きらとまなぶ	☆未記入はぬいています。		公表日		2025 年 5月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	部屋自体がドアで仕切られ、狭く感じる部分があるので、取り組む活動、用途によって部屋を分けて使っている。	その日の子どもの人数や小さい子が多い日は狭く感じることもある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	私が勤務している間は適切であると感じる。らいふと事前に話し合っている。	足りなく感じることもある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	入口に段差があり、車いすなどが通るときにはつけ外しの出来るスロープを用意している。	完全なバリアフリーではない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	子ども達が過ごしやすくなるように、必要があれば仕切ったりしながら活動に合わせて部屋を分けている。	心地よく過ごしていただくために、室内の整理の曜日を決めたり、車の掃除も曜日などを決めて取り組んでいく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		療育のお部屋が静養室の代わりに使っている。また人数に応じては多目的ルームを区切って静養室に使ったりしている。	静養室を使用することで、自立課題に取り組めなくなるので事前に取り組む課題などを取り出し、取り組める場所を作る必要がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		その日の終業前に話し合ったことなどを、次の日の合同朝礼で伝えてもらうようにしている。	朝からくる職員には伝達が行き届くが、午後からの職員には報告が出来ていない時もある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		把握している職員から保護者のことなど伝達している。 保護者の評価をピックアップした内容の改善策などを話し合うようにしている。	朝からの職員が主に考えたり、把握する機会になっているが、午後からの職員には伝えられていないこともある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		合同朝礼時で話し合う機会を設けている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	相談支援の方に評価をしてもらうこともある。	まだしっかりとした形になっていないので、今後どのように評価をしてもらうかを検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職場の内外において、研修の機会があり学べている。 YouTubeなどを使い簡単にみにつけられるように考え取り組んでいる。	研修に参加できない職員向けに、YouTubeなどを利用しているが、見れくれている方は完全ではない。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムを作成し公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者様との面談時に細かく聞き取りしながら、アセスメントを取るようにしている。	しっかりと分析できているかは分からないが、細やかに取り組むようにしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	面談時の話や、支援の考え方を終業後に話し合うようにしている。	送迎に出たり、現場があったりでなかなか時間が取れない日もあるのが現状。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		見直し、作成している。	取り組めるように努力をしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	子ども達の評価表などを独自では作成し毎日記入している。	標準化されているかは分からない。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		移行支援では就学や進学に向けて実際に事業所から家の歩く練習、鍵開けの練習などに取り組んでいる。また卒業生にはマンツーマンでお出かけを経験し、ガイドヘルパーにつなげるための練習も行った。	今後も細やかな5領域の本人支援と家族、移行、地域支援の観点から色んな取り組みをしていきたいと思う。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	同じチームにはなるが話し合っている。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2	プログラムが同じになってしまうこともある。	定期的な見直しが必要だと思う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		考えている。	定期的な見直しが必要だと思う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		合同朝礼時に話し合っている。	直前の打ち合わせになることがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	常勤や帰りの送迎車に乗る職員とは支援の話し合いなどを行っている。	勤務時間の都合上、その日のうちに振り返りが出来ていないことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	業務日葡に1行分の記載が出来るようになっていく。	記載漏れがあったり、見直す時間がない時があるので、定期的に話し合う必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	合同朝礼の際に話し合うようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	2	研修で伝えるようにしている。	基本活動が分からない職員もいるので、今後徹底して伝える必要があると思う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		どんな場面でも子ども達がどう感じるか。どう考えるかなどを大事にしている。	他の職員の支援の仕方を見ながらうまく支援ができるように努力している。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		行っている。	直接関わっていないが、連携していることは把握している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		行っている。	場所によっては話を聞けない保育園などもあるが、些細なことも話し合っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		行っている。サポートブックを使用し、引き続き資料を作成している。	引き続きこのまま行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			必要があれば、児童の様子などをお伝えするが、スーパーバイズまでは出来ていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	市主催の行事には参加している。	他の事業所をお呼びし交流を図ってから始めていく。引き続き地域のイベントには参加していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	行っている。	内容を全体的に伝えきれていないので共有していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	法人内で研修案内を出すことがある。	今後とも法人内から保護者向けに研修案内を提供できたらと思っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約の際に丁寧に伝えている。	支援プログラムはお手紙や公式LINEで説明している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		行っている。	引き続きこのまま行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	行っている。	どんな些細なことでもその場で解決せずに、一度持ち帰ってから話し合い、返事するようにしている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		食事会を設けて交流の場を設けている。	回数的に少なかったこと、昼間を保護者会として開放するなど今後検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		迅速に対応できるようにしている。	その場であったことなどは保護者様にすぐに伝えるようにしている。電話が繋がらない際には次の日には確実に伝えるように心がけている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		発信はしているが、投稿できていないこともある。	公式LINEの中で、行事や連絡なども今後活用していきたいと思っている。公式LINEに入っていない保護者様には電話や手紙でやりとりをする。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			今後とも気を付けながら取り組みたいと思っている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		ローマ字打ちや字の大きさを変えたりしながら書面を作成し、お渡ししている。	もし、また分からないことがあれば押してくださいね。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		招待することは、これからの課題だと思う。今後、防災士の方からの研修などで地域の方も呼ぶことを検討中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		年に2～3回の避難訓練と救命講習なども受けながら対応している。一回は実際に消防士に来ていただき、子ども達と一緒に訓練を行っている。	今後は防災士の方に来てもらい研修をしていくうえで、必要なこと、足りないことなどを学んでいく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		年に2回感染症と災害のBCP訓練を行っている。机上訓練と実際に災害ダイヤルなどの練習も行っている。	まだ活動が始まったばかりで、流れになっていないので、今後形が出来るように考えている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			必ず処方箋などを貰って、座薬なども預かっている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		救命講習の際にアナフィラキシー症状が出た際に、エピペンの使い方を学んでいる。	色んなお子様がいますので、座薬の入れ方なども研修し、誰でも対応できる体制を作っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		対応している。	引き続き気を付けていく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			連絡が取れない際の災害ダイヤルの使い方など、レクチャーを受け取り組んでいる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1		話し合う機会が毎月ではないので、今後も話し合っていきたいと思う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を年に二回受けたり、外部研修を受けに行き、伝達したりしながら全体的に取り組んでいる。	全体に理解してもらえるようにこれからも取り組んでいく必要がある。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		保護者にも説明の上、個別支援計画書にも記載してる。	身体拘束の意味が分からない職員もいるので、都度研修を行う必要がある。